



学習成果と質保証

川嶋太津夫
大阪大学

問題意識

ユニバーサル化

少子化

グローバル化

知識基盤社会

ポートフォリオ社会

アカウントビリティ

多様化

大学全入

同等性
比較可能性

コンピテンス

ポータビリティ
APL

付加価値

質の保証

高等教育の質（優れた大学と

大学の潜在的
能力の指標

大学の質の
間接的な指標

大学の能力を活用
した質（有効性）
の直接的な指標

インプット	プロセス	アウトプット	アウトカムズ
学生の背景 （入学試験の成績、 性別など）	大学が提供する教 育プログラム＆各 種サービスなど	学生の成績、卒業 率、就職率など	学生が身につけた 知識やスキル、態 度、価値観など
教員の背景 （保有学位、年齢な ど）	教員の教育負担、 クラスサイズなど	論文数、FD活動、 授業回数など	論文引用指数（イン パクト）、教員の能 力改善など
教育資源 （蔵書数、PC数な ど）	教育理念、学則、 管理運営体制など	利用可能な諸資源 のデータ、FDへの 参加率など	学生の学習と成長、 成功など

設置
審査

認証
評価

第2
サイクル
認証
評価

United Way of Americaより

「質」をどうとらえるか

質Qualityとは

卓越性Excellence

エリート段階

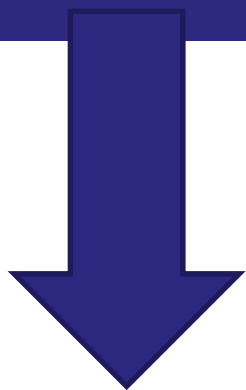
目的適合性Fitness for Purpose

マス段階

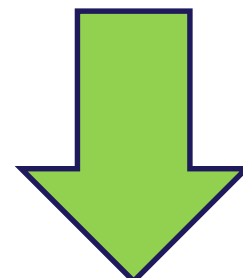
標準Standard

ユニバーサル段階

保証すべき「質」とは



授与する**学位**



学生の学習



習得した知識や
能力の証明

参照枠としての「ラーニング・アウトカムズ」

超国家レベル

- The Framework for Qualifications of the European Higher Education Area(Bologna Process)
- Tuning Project (Bologna Process＋南米＋米国＋**日本**)
- AHELO(OECD)

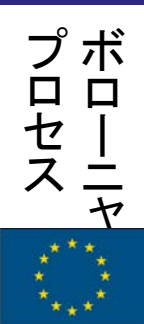
国家レベル

- The Framework for Higher Education Qualifications(UK、Irelandなど)
- Subject Benchmark Statement(UK)
- 「学士力」

中間団体

- Regional Accreditation Bodies
- Association of American Colleges & Universities(USA)

アウトカム重視の高等教育改革



学位の互換性・同等性
教育の質の保証
国際競争力

欧州高等教育
資格枠組

Tuning Project

Learning
Outcomes



経済競争力
大学の拡大
教育の質の保証

高等教育
資格枠組

Subject Benchmark
Statement

Learning
Outcomes
(Generic Skills
Transferable Skills)



アクレディテーション
アカウンタビリティ

Voluntary System
Of
Accountability
付加価値

Learning
Outcomes

アウトカム重視の高等教育改革

2005年連邦教育省 The Commission on the Future of Higher Education (スプリングス委員会)

A Test of Leadership: Charting the Future of U.S. Higher Education (2006) ← No Child Left Behind (初等・中等教育)

＜背景＞

「アメリカの高等教育は21世紀に相応しい人材を養成しているか」

- ・ 高等教育への期待の増加
- ・ 公費負担から家計負担へのシフト
- ・ アカウンタビリティの圧力（雇用者、支出者、インプット重視への批判）
- ・ 国際競争力低下



- Access
- Affordability
- **Accountability**



A TEST OF LEADERSHIP

Charting the Future of U.S. Higher Education

A Report of the Commission Appointed by
Secretary of Education Margaret Spellings



U.S. DEPARTMENT OF EDUCATION



OECDのAHELOプロジェクト

THE OECD

ASSESSMENT OF HIGHER EDUCATION LEARNING OUTCOMES (AHELO)

learning outcomes

higher education



improvement

assessment



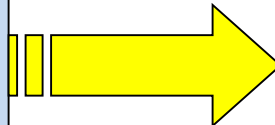
diversity



教育パラダイムから学習パラダイム へ/教員中心から学生中心へ

以 前	現 在
教 員	学 生
教 育	学 習
インプット	アウトカム
ディシプリンの教育	人材の育成
学校での学習	生涯学習

教員が内容を
どれだけ教えたのか



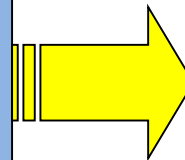
学生がどれだけ学んだのか
何ができるようになったのか

教育パラダイム ⇒ 学習パラダイム



アウトカムを重視した教育とは

何を教えたいのか
Aims
Curriculum



何ができるようになって欲しいのか
Intended Learning
Outcomes



どういう学習機
会・経験があるか
が明確

どこへ行くの
かかが明確

何がどこまで
できれば合
格かが明確

教育・学習：
学生がで
きるよう
になるた
めにする
こと

期待される
学習成果：
学生がで
き
ようにな
らなければ
ならないこと

アセスメント：
学生が
どれだけ
できるよう
なったか

整合性

学習成果(Learning Outcomes)とは

学習者が一定期間の学習を終了した時に知り、理解し、できるようになることが期待されることについて表明されたもの。

(J. Moon, 2002)

アウトカムを重視した教育とは

“Outcome-based education means **starting with** a clear picture of what is important for students to be able to do, **then** organising the curriculum, instruction, and assessment to make sure that this learning ultimately happens.”

From Spady, W. (1994), *Outcome Based Education: Critical Issues*.

DP,CP,AP三位一体の運用による 教育の質保証

DP:卒業時に身に付けておくべき知識・能力(ラーニング・アウトカムズ)に関する方針

CP:どのようにこれらの知識・能力を育成するかという教育戦略に関する方針

AP:DPとCPに基づく教育プログラムで学習するために入学者に求める知識・能力に関する方針

入学試験(知識・能力の確認)

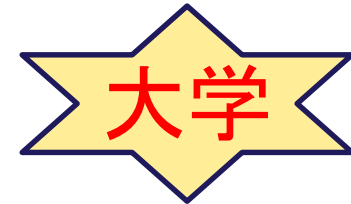
関心・意欲
中心

論点：誰が質保証の主体か？

保証すべき質＝学位（学生の学習成果）



学習機会の提供者＝



しかし、高等教育の

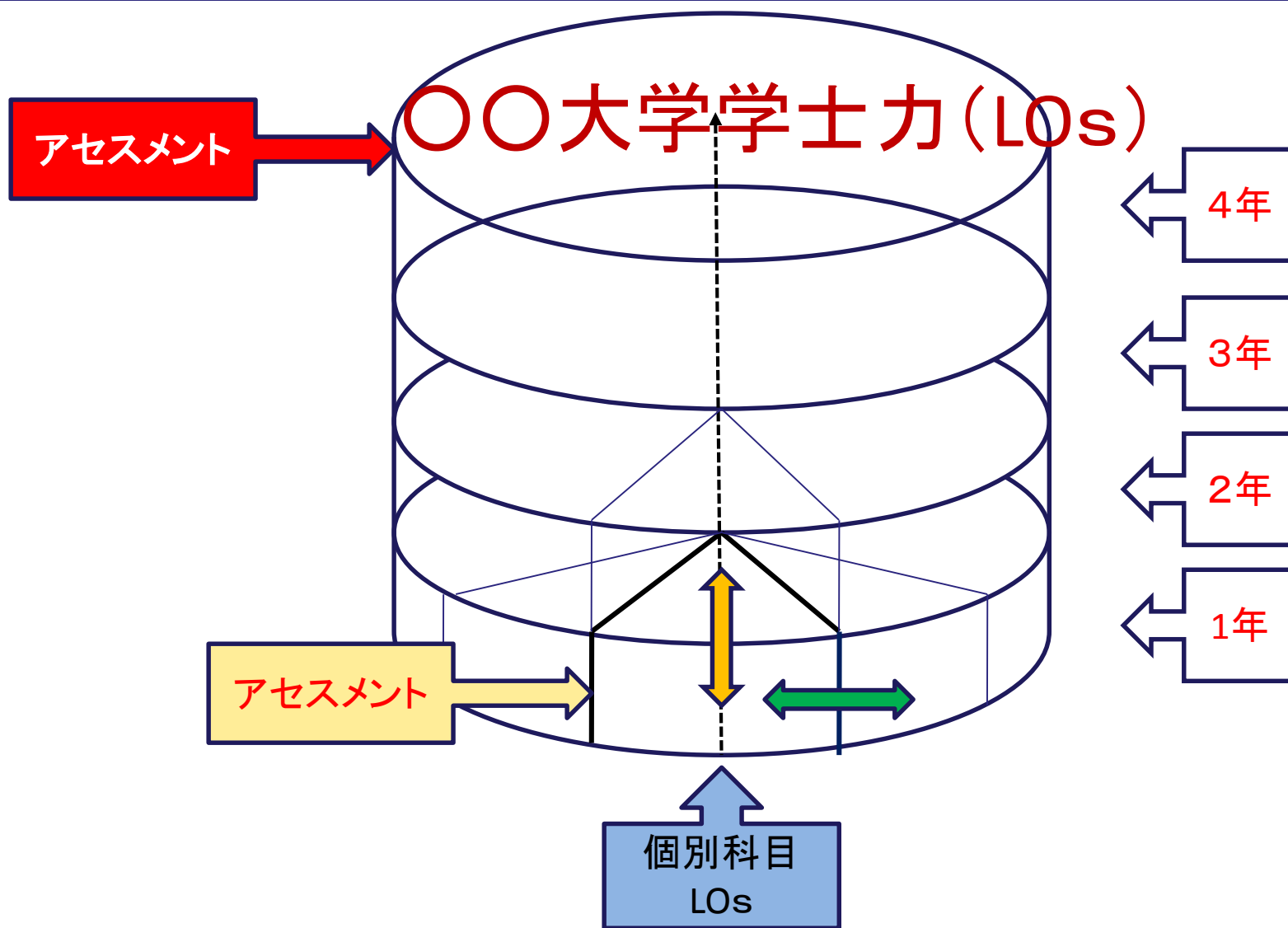
{ ユニバーサル化
グローバル化

それだけで十分か？



様々な参照枠組

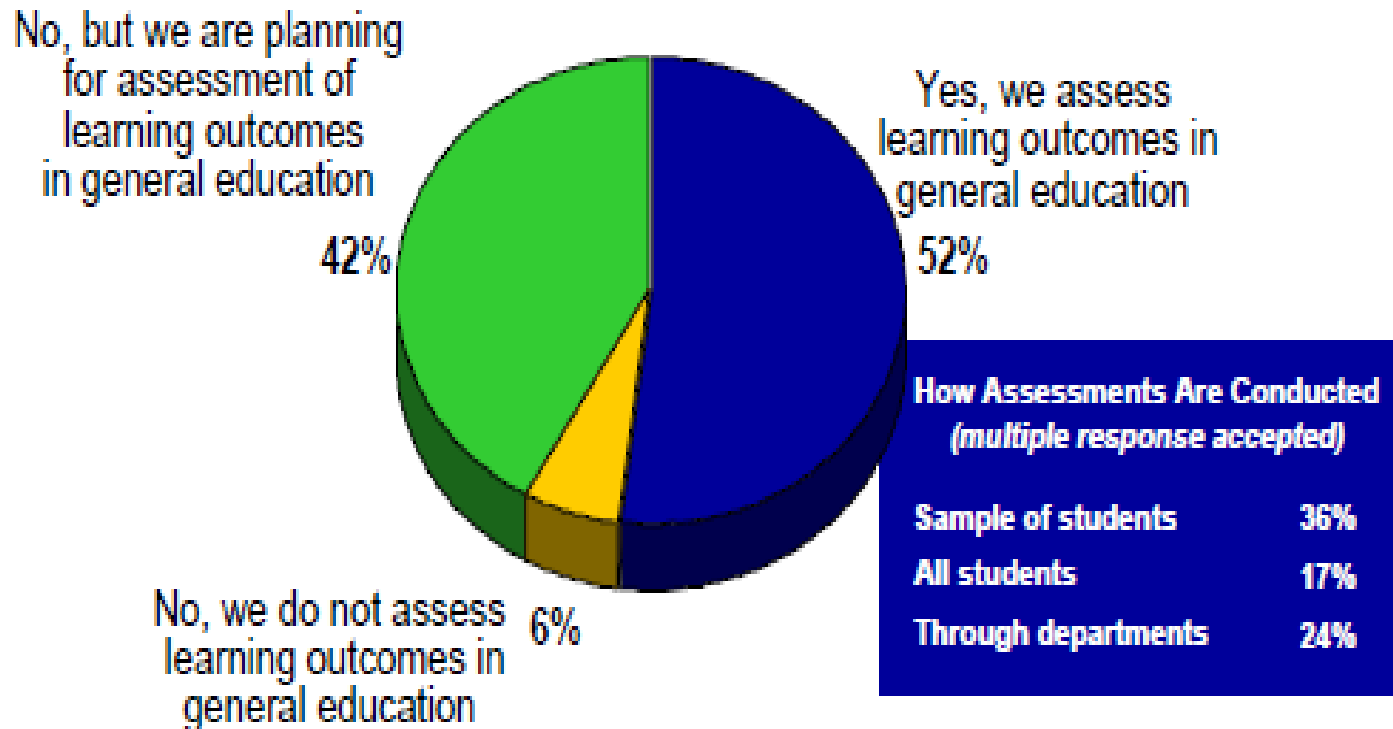
論点：誰が質保証の主体か？



学習成果の設定状況(米国)

	全学共通の ラーニング・ア ウトカムズを 設定	一般教育のみ	学士課程教育 全体	一部は学士課 程教育全体、 一部は一般教 育
全体	78%	18%	26%	34%
カーネギー一分 類				
学士	79%	12%	30%	37%
修士	80%	22%	25%	33%
博士	70%	18%	21%	31%
設置形態				
公立	80%	21%	20%	39%
私立	76%	14%	32%	30%

アセスメントの実施状況(米国)



Learning and Assessment: Trends in Undergraduate Education
AAC&U and Hart Research Associates, 2009

学習の指標（測度）

★間接指標（測度）

- －学生サーベイ、出口（卒業時）サーベイ
- －卒業生サーベイ
- －雇用者サーベイ
- －外部評価

★直接指標（測度）

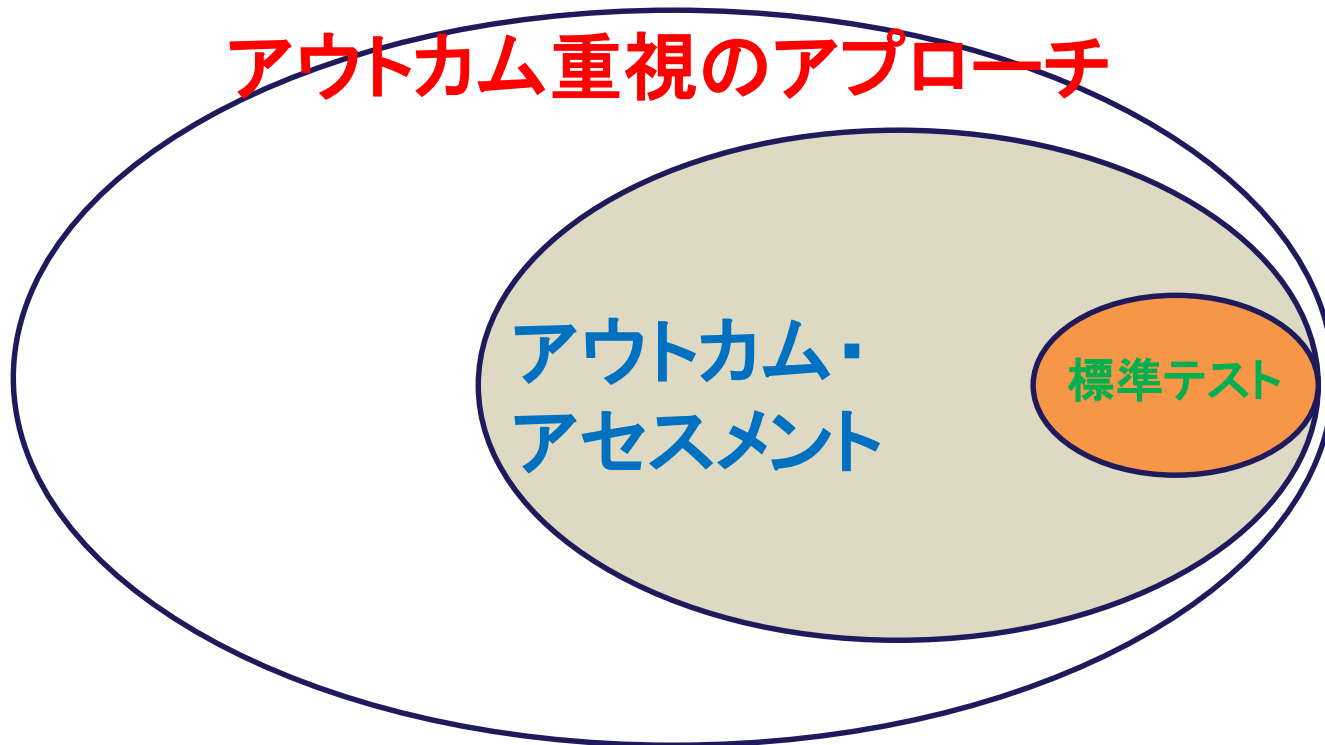
- －テスト
- －コース内評価
- －キャプストーン
- －ポートフォリオ
- －パフォーマンス（ビデオ等）
- －ルーブリック

アセスメントの方法(米国)

活用率	アセスメントの方法
40%	ルーブリックを活用
37%	カプストーン・最終プロジェクト
35%	学生アンケート
27%	全学が独自に開発した共通課題
26%	ジェネリックスキルの標準テスト
23%	大学独自の試験
16%	知識に関する標準テスト
1%	学生のエッセイ・ポートフォリオ
48%	一般教育のアセスメントを行っていない

方向性と現状

アウトカム重視のアプローチ



なぜアウトカム重視なのか

教育機関として大学にビルトインされた学生の**学習**への関心(**改善**)

成果に関する説明責任の増大
(**アカウンタビリティ**)

可
視
化

ラーニング・アウトカムズ
への関心増大

もう一つのグローバル化

「**制度Institution**」としての「**ラーニング・アウトカムズ**」

制度的
組織

技術的組織
(信頼原理
の消失)

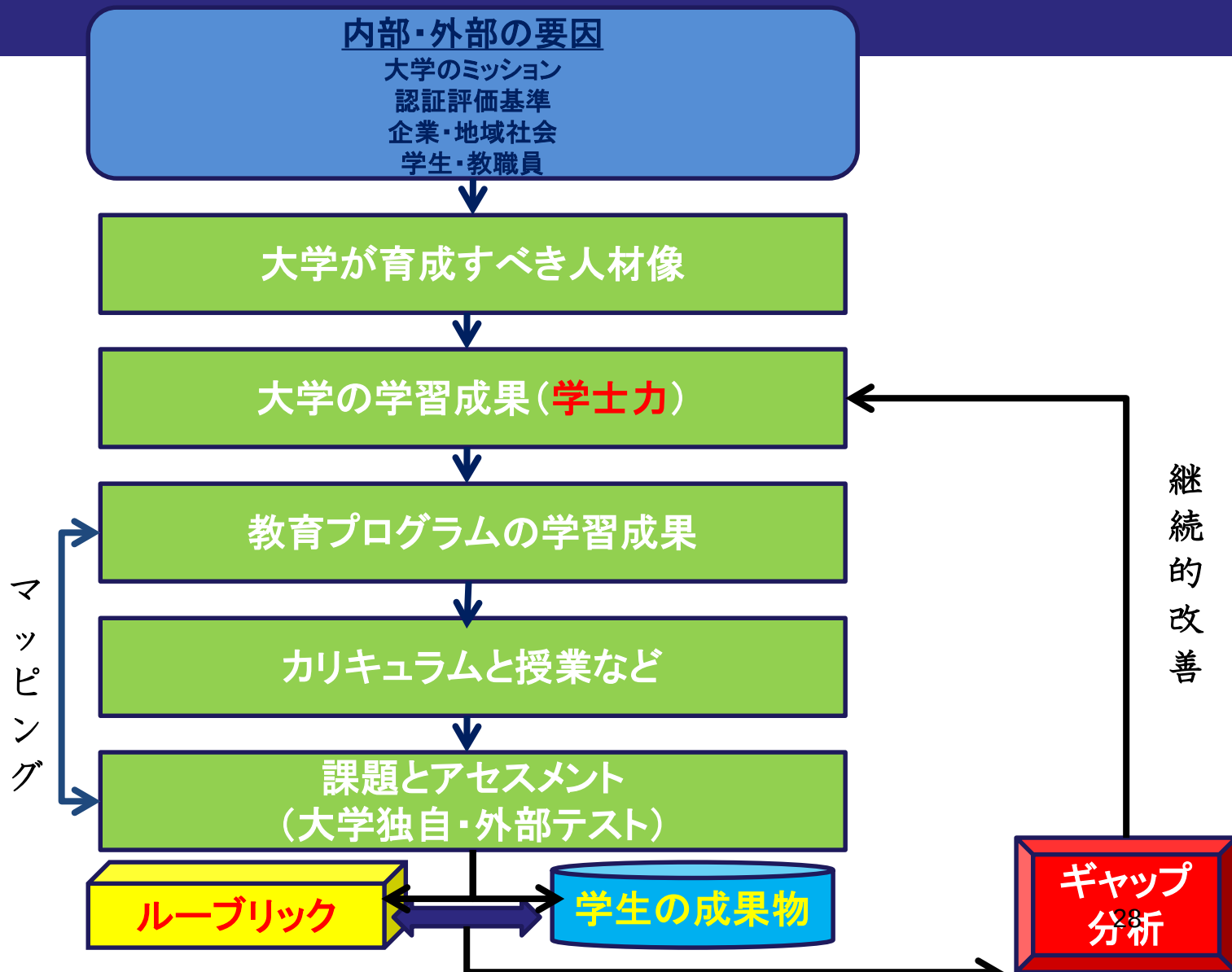
基準6学習成果＝アセスメント・プラン

- 観点6-1-①: 各学年や卒業(修了)時等において学生が身に付ける学力や資質・能力について, 単位修得, 進級, 卒業(修了)の状況, 資格取得の状況等から, あるいは卒業(学位)論文等の内容・水準から判断して学習成果が上がっているか.
- 観点6-1-②: 学習の達成度や満足度に関する学生からの意見聴取の結果から判断して, 学習成果が上がっているか.

基準6学習成果＝アセスメント・プラン

- 観点6-2-①: 就職や進学といった卒業(修了)後の進路の状況等の実績から判断して、学習成果が上がっているか。
- 観点6-2-②: 卒業(修了)生や、就職先等の関係者からの意見聴取の結果から判断して学習成果が上がっているか。

学習成果マネジメント



まとめと我が国への示唆

1. 大学卒業認定は各大学の責任・権限(学位授与権)
2. それを支援する仕組みが必要(中間団体、国)
2. 共通テストで卒業認定を行っている国は極めて稀(ブラジル: Deborah Nusche (深堀 聰子訳)、『高等教育における学習成果アセスメントー特筆すべき事例の比較研究ー』、OECD教育関連ワーキングペーパーNo. 15, 2008.)
3. ただし、共通(標準)テストを教育・学習の改善に活用している国や大学は多い。
4. 各大学はDP+CP+AP+APの確立と公開が急務
5. アセスメント手法の開発が必要
(内部の質保証システム=自律的・内発的なアカウンタビリティ)

ご清聴ありがとうございました

tatsuo314@iai.osaka-u.ac.jp